

第5回キャリア教育アワード 受賞者事例集



2014年12月



キャリア教育アワードとは

経済産業省では、子どもたちに対し働くことの意義や学びと実社会とのつながりを伝え、社会的・職業的自立に向けた力を育成する「キャリア教育」の取組を推し進めています。

この一環として、産業界による優れた教育支援活動の取組とその効果を広く社会で共有し、こうした活動を奨励・普及・促進することを目的として、企業や経済団体による教育支援の取組を公募し、優秀と認められる事例を表彰しています。

審査部門は、各企業・団体の取組の主体により①大企業の部、②中小企業第1部（単独の部）、③中小企業第2部（協働の部）④コーディネーターの部で構成しており、審査委員会による審査により、大賞（経済産業大臣賞のうち総合的に最も優れた企業・団体等）、最優秀賞（経済産業大臣賞）、優秀賞、奨励賞を選出します。

① 大企業の部



キャリア教育に取り組む大企業・団体
(従業員数が300人超の企業または団体)

② 中小企業第1部(単独の部)



キャリア教育に取り組む中小企業・団体
(従業員数 300 人以下の企業または団体)

③ 中小企業第2部(協働の部)



3社以上で協力してキャリア教育に取り組む
中小企業・団体

新設 ④ コーディネーターの部



専門的知識・経験に基づいたプログラム作成
やマッチングサービス等を提供することで
キャリア教育を支援するコーディネート機関

企業・地域の人々が「本物の社会」「本物のシゴト」を教えることが、子供たちの興味・関心を惹きつけ、「働くこと」に対する価値観の醸成、学習意欲向上などにつながります。

近年では、次世代を担う若者育成のため、企業や地域社会が積極的に教育支援活動を行う事例が増加してきていますが、これらの活動は、企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility : CSR）としての貢献活動にとどまらず、企業側にも様々な効果をもたらしています。

実際に取り組んだ企業等からは、自社のブランド価値の浸透や、若者向けの製品やサービスの品質向上といった直接的なメリットもさることながら、活動に参加した社員が自己の仕事の内容ややりがいや子供に伝えることを通して、自らの仕事の価値を再認識するという、社員自身の人材育成にも効果があるといった効果や、全社的に取り組むことで企業内のコミュニケーションが活発化するという効果が報告されています。



目次



大賞

中小企業第2部（協働の部）

かわさきマイスター友の会	3
--------------	---

※経済産業大臣賞受賞者のうち、総合的に最も優秀と認められる企業・団体等

経済産業大臣賞（最優秀賞）

大企業の部

MSD 株式会社	4
----------	---

中小企業第1部（単独の部）

特定非営利法人地域活動センター ぷろぼの ぷろぼのスコラ事業部	5
---------------------------------	---

コーディネーターの部

特定非営利活動法人アスクネット	6
-----------------	---

優秀賞

大企業の部

ダイキン工業株式会社	7
------------	---

株式会社日立製作所・ユニバーサルデザイン出前授業プロジェクトチーム	8
-----------------------------------	---

中小企業第1部（単独の部）

スリール株式会社	9
----------	---

中小企業第2部（協働の部）

瀬戸キャリア教育推進協議会	10
---------------	----

コーディネーターの部

特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアム	11
-------------------------	----

奨励賞

大企業の部

S C S K 株式会社	12
--------------	----

日本ヒューレット・パカード株式会社	13
-------------------	----

株式会社フジテレビジョン	14
--------------	----

中小企業第1部（単独の部）

折り紙ヒコーキ協会（事務局：株式会社キャストム）	15
--------------------------	----

一般社団法人 Summer in JAPAN	16
------------------------	----

株式会社トモノカイ	17
-----------	----

中小企業第2部（協働の部）

リエゾン・デートル	18
-----------	----

コーディネーターの部

特定非営利活動法人企業教育研究会	19
------------------	----

株式会社キャリアリンク	20
-------------	----

株式会社ソシオエンジン・アソシエイツ	21
--------------------	----

大賞

経済産業大臣賞 中小企業第2部（協働の部）

<p>企業・団体名</p>	<p>かわさきマイスター友の会</p>
<p>プログラム名</p>	<p>川崎市内最高峰の匠が教える「ものづくり」の素晴らしさと子供達の秘めたる可能性</p>
<p>協働の概要</p>	<p>川崎市が認定している「ものづくり」の達人であり、日本トップクラス・世界クラスの技能を保持する川崎市内最高峰の匠「かわさきマイスター」66名（所属企業63社）で組織している「かわさきマイスター友の会」が、川崎市経済労働局や教育委員会等と連携しながら、教育機関での「ものづくり」体験・製作実演・講演等を行っている。「ものづくり」への関心を高め、職業としての意識付けをするとともに、マイスターの多様な職種や経歴を触れ合いを通じて伝えることで、子供達の秘めたる可能性を引き出すことが目的。</p>
<p>活動の内容 （概要）</p>	<p>小学校1年から大学、職業技術校を対象に様々なプログラムを提供している。小学校では「総合的な学習の時間」の教科において、年間を通して子供達の職業観を養うカリキュラムを計画している学校がマイスターの活用を行うケースが多数。自分の将来の夢、やりたい仕事や就きたい職業を考えた後に、長年、努力を積み重ね、自分の夢をかなえた身近な成功事例として「かわさきマイスター」を紹介している。子供向けのマンガや動画を活用した事前学習を行い、平易に理解を深めている。また、中学校では技術・家庭科、高校では電気科・建築科等のコースと連携し、学校では学ぶことのできない卓越した技能を実演・実技指導し、「ものづくり」を職業とする意識啓発をしている。</p> <p>一流の技能を目の前で体感し、また長年、地道に一つの職種を極めてきた達人の生き様や人柄に直接、触れることは、仕事に対する実直で謙虚な姿勢など学ぶべき点多々ある。また、自分の身近に、その職種において日本を代表する存在であるマイスターが存在していることを知ることで、地域に誇りを持つことにもつながっている。</p>
	<p>【洋裁・介護服の匠 栗田佐穂子氏による授業風景】</p> <p>平成26年8月23日（土）川崎市内中学生を対象に実施した手芸教室において、かわさきマイスターで洋裁・介護服の匠である栗田佐穂子氏がファスナーつきポーチ製作を指導している。</p>
	<p>【ピアノ調律技能士 大友豊輝氏による授業風景】</p> <p>平成26年5月30日（火）に川崎市内中学校2年生175名を対象に実施された職業講話にて、かわさきマイスターでピアノ調律技能士の大友豊輝氏がピアノの調律を行いながら、音の変化を聞かせている。</p>

経済産業大臣賞

大企業の部

企業・団体名	MSD 株式会社
プログラム名	サイエンス・スクール ～「科学者たちのルール」の授業～
活動の内容 (概要)	<p>未来の科学者や医療従事者の育成に貢献し、ひいては科学と医療の発展に貢献することを目的に「サイエンス・スクール」を実施している。公益社団法人日本ユネスコ協会連盟とパートナーシップを組み、2011年より小学高学年を対象に開始した。</p> <p>サイエンス・スクールでは「観察・予想・証明」という普遍的なプロセスを「科学者たちのルール」と称し、同プロセスが「いのちと健康」の分野で実社会にどう生かされているか児童に体感してもらうことで理科系の学問はもちろんのこと、社会生活においても資することができる、ものの考え方の体得を目指している。</p> <p>現場の教育ニーズに合わせた形で授業を実施すべく、学校と事前打ち合わせを実施し、目的・概要の共有、理科の学習指導要領との整合性を調整。前半が座学、後半が薬作り体験の2部構成の時間割りで、参加児童を5名程度の班に分けて進行し、科学実験の体験による理科への興味喚起だけでなく、なぜそう思ったのか？なぜそうなったのか？について論理的に考えさせることを重視した授業内容となっている。与えられた課題に対し班内で意見を出し合い討議し、答えを絞り込んでいく過程で、児童が「科学者たちのルール」を実践できるようプログラムを企画している。また、学校側の要望に応じて、製薬会社でのキャリアをより具体的かつ身近に感じてもらえるよう、研究開発やMRの業務内容を説明する機会を授業内に設けている。</p>



【社員によるファシリテーション】

薬作り体験として、軟膏を作っている様子の写真。サポーター社員がファシリテーターとして各グループに一人ずつ配置され、グループ内で「科学者たちのルール」に基づいた議論を活性化させる。また製薬産業を身近に感じるよう、より接点を多くし積極的に児童と係り合う。



【経営陣も積極的に参加】

社長をはじめとした経営陣も積極的に参加している。写真は社長のトニー・アルバレス氏が、人体パネルを用いて、消化の仕組みを基に薬の体内での吸収について解説している授業風景。子供たちの理解が深まるよう、解説ツールにもさまざまな工夫をしている。

経済産業大臣賞

中小企業第1部（単独の部）

<p>企業・団体名</p>	<p>特定非営利法人地域活動支援センターぷろぼの ぷろぼのスコラ事業部</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>障害を持った高校生に向けたキャリア教育プログラム『スコラ システム』</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>児童福祉法に基づく障害福祉サービス事業「放課後等デイサービス」として「ぷろぼのスコラ」を開校。「職業体験」がメインではなく「職業準備性を調えること・社会人基礎力を養うこと」を目的として、①基礎体力づくり、②社会と繋がるための社会人マナー（コミュニケーション・姿勢・自己表現・ルール）、③社会で汎用性の高いITの基礎技術、④社会と接点が築ける創作活動の4つを柱に、20の基本プログラムを準備している。</p> <p>学校等の関連機関と連携し、各個人に応じた個別支援計画書を作成。初期段階では難易度の低いプログラムを設定する等、成長段階において適切なプログラムが選定できるように配慮している。</p> <p>さらにプログラムの一環として、夏休み等の長期休暇には、就労移行支援の訓練に実習参加し、実際の訓練を直接体験し社会や就労への具体的なイメージを深めている。様々な障害を持つ大人に接することが出来るうえに、社会に出るための訓練プログラムに参加することで、社会人への意識を肌で感じることができる機会となっている。</p>	
	<p>【基本プログラム1:B,Bきたえまスコラ（バランスボール）】</p> <p>主に腹筋、ブリッジ、腕立て伏せを毎日行うことで、筋力向上に繋がる。</p> <p>他にも、ふらつきが見られた利用者の体幹が鍛えられ身体の芯が安定したり、IT系のプログラムなど座学で落ち着きのない利用者集中力が着いている。</p>	
	<p>【基本プログラム8:挨拶モノマネ】</p> <p>互いの挨拶を観察して、話し方や姿勢、表情などをモノマネし合う。相手をしっかりと観察する集中力、それを再現する表現力が身に付き、また自分では人からどんなふうに見えるのかを知る機会になる。模倣し合う楽しさで、笑顔が生まれ、関係性の構築にも繋がる。（立位奥の挨拶を、立位手前がモノマネするところ。）</p>	

経済産業大臣賞

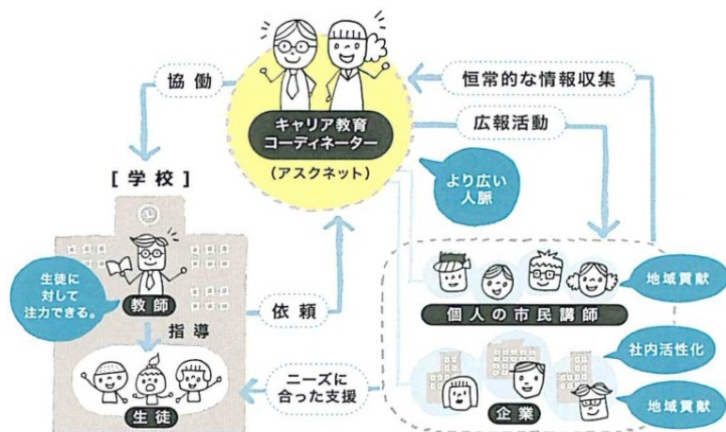
コーディネーターの部

企業・団体名	特定非営利活動法人アスクネット
プログラム名	高校生を対象にしたインターンシッププログラム～マイチャレンジインターンシップ～
支援・連携体制	公募型インターンシップ：スタッフ、31カ所の受け入れ先、資金協力団体（一般社団法人アスバシ教育基金、平成26年度年賀寄付金、名フィル子どものエール基金）、後援団体（愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会）により実施。 学校単体型インターンシップ：スタッフ、教員、受け入れ先企業、社会人講師により実施。
活動の内容（概要）	愛知県事業として高校でのキャリア教育推進事業に携わった。各校の事情によりインターンシップの取組状況が異なる現状を目の当たりにし、学校に関係無く愛知県内の高校生ならだれでも参加できる公募型インターンシップの導入を進めた。その後、学校単位でのインターンシップも開始し、県内の高校生たちに社会での挑戦の場を提供している。 公募型では、県内の全高校約200校へ案内を送付し参加者を募集。事前事後学習とインターンシップ時にインタビューの課題を課しており、終了後には参加生徒の有志を集め、受入先・保護者・教員・寄付者向けに体験報告会を実施している。 単体型では、教員と協働しながら学校・生徒の現状や課題などをもとに、プログラムのテーマを設定。社会人講師による授業とインターンシップを行いながら課題解決型プログラムを企画運営している。学校現場と企業、社会の両方を知るコーディネーターが介在することで、効果的なキャリア教育を行うことができている。



【公募型インターンシップのコーディネーター】

県内の全高校を対象に参加を募り、学校も学年も異なる生徒が切磋琢磨しながらインターンシップを行います。本プログラムは400名以上の市民・企業の寄付による実施できている。



【学校単体型インターンシップのコーディネーター】

教員と協働しながら、学校や地域のニーズに即した体験を生みだすインターンシップを実施。

体験中は個人目標を立て、達成できるように様々な挑戦を行っている。

小さな挑戦の中から、大きな成長を遂げ社会人基礎力を育む。

社会人講師やインターンシップ
学校単体インターンシップ

インターンシップの受入れや
社会人講師として協力
社会人講師にて協力



優秀賞

大企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>ダイキン工業株式会社</p>
<p>プログラム名</p>	<p>環境教育プログラム The Circle Of Life サークル・オブ・ライフ</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>「人と自然はつながっていること」「日本の豊かな暮らしは世界の多くの国々に支えられていること」、「自分たちも世界の国々を支える行動ができること」を子どもたちが考え、行動するきっかけになってほしいという狙いから、自社のインドネシアでの「森林再生プロジェクト」の経験をもとに、森林減少を題材にしたプログラムを開発。実施校の先生による授業を基本とし、全国の小学校に教材を無償で提供している。</p> <p>多様な写真・グラフの読み取りやロールプレイを通して、世界の環境問題と自分を結びつけ、環境問題解決のために自分にできることを考え、発表する、「思考力・判断力・表現力」をはぐくむことを目指したプログラム構成となっており、学習目的に応じて自由にアレンジが可能。</p> <p><関連教科>小6理科「生物と環境」、小6社会科「世界の中の日本の役割」 <授業構成>実施校の先生による授業 45分×5時限(推奨)</p> <p>【授業1】生き物と環境とのかかわり 【授業2】森林問題と私たちの生活とのかかわり 【授業3】森林問題をめぐる人々とのかかわり 【授業4】環境問題と私たちのかかわり</p> <p>・オプションとして当社従業員講師による出張授業(1時限)も行っている。 【発展授業(授業5)】当社従業員講師による出張授業 プロはここまで考えている!~モノづくり企業の取り組み~</p>
 <p>中国の学習を通して学んだこと</p> <p>環境を守るために、いろいろな人がいろいろな努力をしていることがわかりました。木には一人一人別の思いがあるので、みんなの意見を大切に使う分だけ木を切り取り、少しでも環境に役立つ事をしたりするのが一番良いと考えました。この勉強をする前は、ただやらなければならない感じがして思っていました。けれど、インドネシアの人の意見を聞いたり考えたリしていると、切らない事だけがする事じゃないと思えました。人間だけでなく、生物も安心して暮らせる世界になればいいなと思いました。</p>	<p>【授業3~森林会議の様子~】</p> <p>インドネシア政府、環境活動家、インドネシアで林業で生計をたてている人、日本の消費者、日本政府の5つの立場に分かれ、それぞれの視点から、インドネシアの木を切ることに賛成か反対かの意見を出し合う。</p> <p>さまざまな立場の人がいて、それぞれに異なった意見があり、単純に「環境を守ることは大切」だけでは解決は難しいこと、立場の違いによる主張の違いについてお互いが理解した上で、解決策を考えることが必要であることを気づかせる授業となっている。</p> <p>ロールプレイを通して、児童一人ひとりがその立場になりきり、白熱したディスカッションが行われ、児童からは「森林問題の取り組みは、ただ木を植えるだけと思っていたけど、それだけではないことに気がついた」などの感想があった。実施校の先生へのアンケート結果でも、ほぼすべての先生が「プログラムが有効である」と回答している。</p>
	<p>【発展授業(オプション)の社内従業員講師による出張授業】</p> <p>モノづくりの企業が、自然環境と人々の豊かな生活の両方を守るために行っている取り組みや、そこに携わる人々の工夫や努力について知る授業。</p> <p>企業で働く大人たちが、それぞれの仕事の中で、小さな工夫を積み重ねている事例を伝え、小さなことでも積み重ねれば大きな効果があること、自分たちにもできることがあることに気づき、行動につなげてもらう。</p> <p>実施校の先生からは、「子どもたちの感想の多くが『知らないことがわかってよかった』にとどまらず『自分にできることをしたい』というものが多く、前向きに考えさせることができたと思う。」などの声をもらっている。</p>

優秀賞

大企業の部

企業・団体名	株式会社日立製作所・ユニバーサルデザイン出前授業プロジェクトチーム
プログラム名	思いやりをカタチにしよう！UD体感学習プロジェクト
活動の内容 (概要)	<p>創業以来、事業を通じて培ってきた社内リソースを社会に還元し、モノづくりの大切さと、ユニバーサルデザインの考え方を社会に広めることを目的に、次世代を担う子どもたちを対象としたユニバーサルデザインの出前授業を2005年春より開始。</p> <p>本活動は、①利用しやすい生活空間や地域社会の姿を考える、②よりよい社会の実現のために、自分たちができることをかんがえることを狙いとして、一方的な講義形式の授業ではなく、開発体験グループワークなどを通じて、自ら考えることを主体としたプログラムとしている。</p> <p>2014年度は、日立グループ従業員のボランティアメンバーを7チームに分け、チーム毎に授業を割当てて実施している。授業開始前に事前打ち合わせを実施して本番に臨み、授業実施後には必ず学校や子どもたちに意見・感想をもらい改善点等の把握に努めている。子どもたちに自分と社会とのつながりを認識できるよう、ボランティアは子どもたちに書いてもらった感想一人ひとりに対しコメントを記入して返信している。</p> <p>総合学習の時間での福祉の授業や国語等の教科書に掲載されているユニバーサルデザインなどと関連づけて授業を実施し、「思いやりと助け合うところ」を育むことにつなげている。子どもたちからの高評価だけでなく、学校関係者から「普段の授業ではあまり活躍できない子が、とても楽しそうに参加していて驚いた」等の声があり、子どもの可能性や視野を広げる手助けに貢献している。</p>
	<p>【グループワーク風景】</p> <p>1グループ5～6名のグループに分かれて、誰にでも利用しやすいテレビのリモコンを考えるグループワークを実施している様子。1グループに1名ずつファシリテーターとして従業員ボランティアがつく。</p>
	<p>【視覚障害者の疑似体験】</p> <p>袋の中にエアコンのリモコンを入れておき、子どもたちには一人5秒間だけ袋の中に手を入れてもらい、中身が何かを考えてもらうゲーム。</p>

優秀賞

中小企業第1部（単独の部）

企業・団体名	スリール株式会社
プログラム名	「キャリアを諦めずに、仕事と子育てを両立する人」を育てる 「ワーク&ライフ・インターン プログラム」
活動の内容 (概要)	<p>「仕事と子育ての両立」について体験する機会の不足からくる「共働きへの漠然としたネガティブイメージ」を払拭するべく、職業選択前の大学生に対して「仕事と子育ての両立」のリアルを伝えるインターンシッププログラム「ワーク&ライフ・インターン」を実施。</p> <p>プログラムの核となる「両立体験プログラム」では、4ヶ月間にわたり月に数回、実際に共働き家庭にインターンに行くことで、「どうやって両立を実現させるのか」などをリアルに体験する。共働きの家庭は学生にとってロールモデルとなり、ワーキングマザーとの会話から、長期的なキャリアに対する新しい視点を得ることができる。</p> <p>さらに、様々なキャリアの話聞き選択肢を広げる「キャリアを知るプログラム」、自分の体、子育て、働き方など、「仕事と子育ての両立」に関係する知識や、現代社会に置ける状況についての理解を深める「座学プログラム」などを時間実施。</p> <p>インターン終了後には、学生一人一人が自分の学びを発表することで、自分のキャリア観を深掘りする。</p> <p>結果として、参加学生がインターンを経て、【87%】が社会人になることに前向きになるという回答をし、制度に頼ること無く自律的に仕事と子育てを両立すると答える学生が【13%⇒60%】と47ポイント向上した。学生は漠然とした両立への不安から、自分次第で両立ができるという変化を遂げている。</p>



【キャリア勉強会】

- 学びをシェアし、深める場
約 40 名の同期が毎月集まり、インターンでの学びをシェアすることで、学びがさらに深まる。
- 専門家による講座で知識を広げる
ワークライフバランス講座、男性の育児講座など毎回専門家による講座の時間があるので、様々な視点から考え、知識を広げることができる。



【家庭でのインターンの様子】

- 仕事も子育ても充実させる方法を具体的に体験
1つの家庭に4ヶ月間継続的にインターンすることで、子育ての良い部分も大変な部分も知り、具体的に仕事も子育ても両立して充実する未来を想像できるようになる。

優秀賞

中小企業第2部（協働の部）

企業・団体名	瀬戸キャリア教育推進協議会
プログラム名	せとがまるっとセンセイになるとき
協働の概要	平成17年に瀬戸キャリア教育推進協議会を設立。瀬戸商工会議所・瀬戸市教育委員会・瀬戸市役所産業課が事務局となり、地場産業である陶磁器関係組合各所、地元企業団地・商店街・PTA・NPO 団体・地元の高校・大学など、多方面の関係者が委員となり、活動をサポート。また、地元企業・商店街・NPO 団体等から、83名が市民講師として登録。その中から学校のニーズに合わせてその道のスペシャリストを派遣し、子どもたちに講義を行っている。中学校の職場体験受入れ先として瀬戸市および近郊の300事業所が登録し、協力している。
活動の内容 （概要）	瀬戸市の全中学校8校と、小学校11校（全20校）、特別支援学校1校で活動を実施。中学校では、1年生で「生き方講座」、2年生の職場体験の事前学習として「職業講座」「マナー講座」、3年生では「面接指導」「コミュニケーション講座」を、小学校では、体験型ワークショップとして楽しみながら世界経済や社会の仕組みを学べる「貿易ゲーム」や、箱作りを通じて改善点を見出し工夫することを学ぶ「カイゼンセミナー」、地場産業を活かした「ものづくり体験」を行っている。 また「せともの」を活かしたプロジェクト型学習を、年間を通して実施している。自分たちの会社を立ち上げ、経営戦略から製造・販売まで幅広く学ぶ実践学習となっている。 すべてのプログラムに先生以外の大人との出会いがあり、その大人が楽しそうに生き生きとしている姿を子供たちに見てもらおうことを大切にしている。販売体験や職場体験を通じて、自己の可能性に気づき、社会との繋がりやコミュニケーションの大切さを学ぶことができる。



【自分たちで作った陶器販売風景】

会社を立ち上げ、自分たちで企画から商品づくり、販売体験、まとめまでを実践。

自分たちで作った陶器のお皿、カップなどを、地域の方や保護者に販売している様子。お店の看板やポップも手作りで、おまけ付き商品など工夫を凝らした商品がたくさん並んでいる。



【中学2年生「職業講座」】

中学2年生で実施する「職場体験」の事前授業として行う「職業講座」。

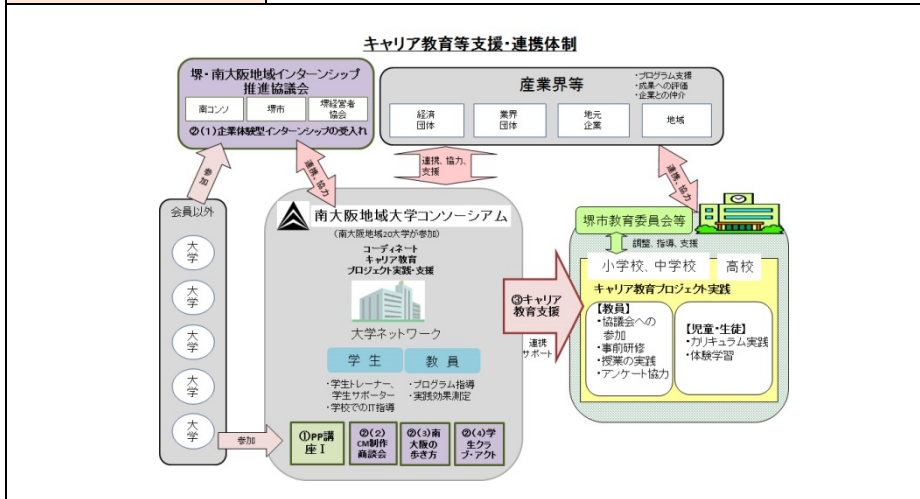
さまざまな経験をもった地域の方を市民講師として教室に招き、仕事の大変さ、楽しさ、生きる事の素晴らしさを教わる。

写真の講師は「ピアノの調律師」で、実際にピアノを分解して調律を見せているところ。

優秀賞

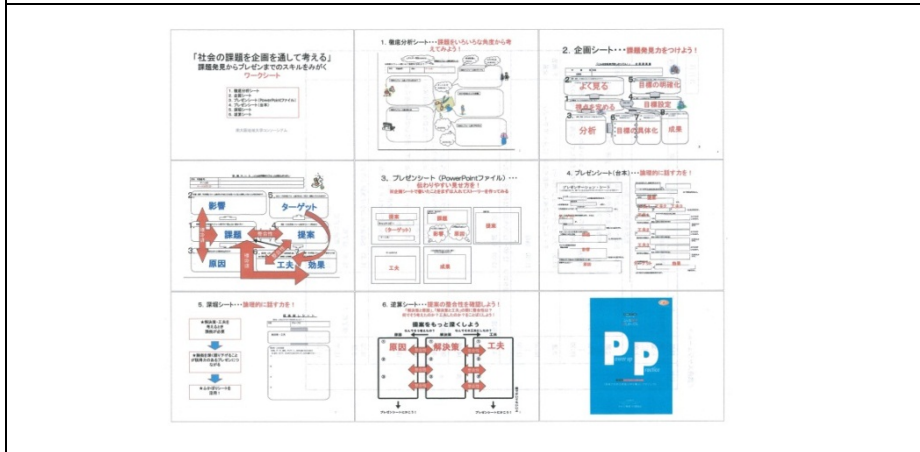
コーディネーターの部

企業・団体名	特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアム
プログラム名	① PP 講座 I 「キャリアと社会」(PP 講座: 本コンソーシアムの単位互換センター科目の講座である「Power up Practice 人間力育成講座」) ② 多種多様なインターンシップ (IS) 事業 ③ 小中高向けのキャリア教育支援事業
支援・連携体制	南大阪地域に立地する大学が、教育・学術研究をはじめ、産学協働研究、生涯学習環境の充実など広域な分野で連携している。また、事業ごとに産業界や行政、教育委員会、地元企業等が連携協力している。
活動の内容 (概要)	地域の学術機能の向上と産学官地域連携を推進する中で地域の発展に貢献することを主な目的とし、その活動の多くは、A) 社会との接点を演出した学生の人材育成プログラムとして、また同時に、B) 産官学地域連携取組として展開。 PP 講座 I 「キャリアと社会」では、地域活性化のカギを握る関西空港が抱える課題を題材とした内容で、単位互換の2泊3日集中講義合宿型プログラムとして実施。インターンシップ事業では、一般的な企業体験型インターンシップのほか、芸術系学生向けに「CM制作商談会」、観光系学生向け「南大阪の歩き方」といった特徴的なインターンシップを、地域の産業界と連携して実施している。また、これらのノウハウを活かし、小中高向けのキャリア教育についても、学校の要望に応じて、企業や地域等をコーディネートし授業実践支援を行っている。 本活動に協力している企業等は教育CSRとしてプログラムに参加することで、地域の人材育成に貢献する場を提供する機会としており、また、参加した企業にとっての若手社員の人材育成の場としても利用している。また、「定型の説明書式」や「実施計画表の定型化」を利用して関係者と事前の打ち合わせを行っている。 また、効果的な教育作りを持続的に推進するため、「教育連携委員会」と「産官学・地域連携委員会」を設置し、産業界・教育関係者等の協力関係を構築している。



【キャリア教育等支援・連携体制図】

経済、環境、教育、子育て、まちづくり、地域活性化などなど、プログラムの内容が多様化していることから、様々な領域から広く産業界等の協力を得るとともに、プログラム同士の相乗効果により、産官学地域連携による信頼関係がさらに強まる効果を生んでいる。



【キャリア教育で使用する「ワークシート」及びPP 講座 I 「キャリアと社会」で使用する教科書】

コンソーシアムでは、開発したキャリア教育プログラムは教材パッケージ化(プログラム概要、学習の流れ、指導計画、指導案、ワークシートをセットにしたもの)して蓄積し、成果を共有できるようにしている。プログラムによってはHP上で利用可能にして提供。



奨励賞

大企業の部

企業・団体名	SCSK株式会社
プログラム名	CAMP (Children's Art Museum & Park)
活動の内容 (概要)	<p>様々な種類のワークショップを通して、こどもたちが楽しみながら創造性や表現力を伸ばし、チームワークを学び、未来を共に創り出す力を育む活動として、2001年4月より「CAMP」の活動に取り組んでいる。</p> <p>CAMPスタッフによる独自開発の他、社外のアーティストや研究者、NPO等との協働により、様々なコンセプト・ねらいのプログラムを開発し、小学1～3年生向けと小学4～中学3年生向けに分けて実施している。学外で開催するCAMPワークショップでは、初めて出会った異学年のこどもたちがチームとなり、協力してひとつの作品を創り上げる。</p> <p>通常規模のワークショップ（こども参加者20名程）では、CAMP専属のスタッフ2～3名とボランティア数名の計6～7名がファシリテーターとして参加する。どのワークショップにも制作後に作品発表会とふりかえりの時間がとられており、発表会ではチーム毎に作品の特徴や気に入っているところ、頑張ったところを発表する。また、ふりかえりの時間には、その日のワークショップの様子をファシリテーターが撮影したスナップ写真のスライドショーでふりかえる。後日、各チームの作品とワークショップの様子をCAMPのウェブサイトにてレポートとして掲載しており、家庭でのふりかえりの機会ともなっている。</p>
	<p>【CAMPクリケットワークショップの作品制作の様子】</p> <p>乾電池式の小型コンピュータ「クリケット」に取り付けたモーターやセンサー等をプログラミング制御する（プログラムはパソコンで作成しクリケットへ赤外線通信でダウンロード）。</p> <p>クリケットと身の回りの様々な素材、こどもたちの自由な発想から毎回ユニークな作品が出来上がる。</p>
	<p>【CAMPクリケットワークショップの作品発表会の様子】</p> <p>このワークショップでは2～3人のチームでひとつの作品をつくり上げる。CAMPでは作品制作の過程をこどもたち同士が主体的に楽しんで取り組めることを重視している。発表会に向けて作品の完成度を求めるのではなく、過程の中での学びと成長を大切にしたいと考えている。</p>



奨励賞

大企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>日本ヒューレット・パッカード株式会社</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>BLP Advanced (※BLP=Business Leadership Program)</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>立教大学経営学部の必修科目「リーダーシップ入門」で産学連携した経験をもとに、これを発展させ、IT とビジネスの立案に特化した HP オリジナルの BLP プロジェクト。立教大学経営学部に提案し非正科目 BLP Advanced という形で実現した(2012 年より実施)。</p> <p>内容は日本 HP が実際に抱えている課題をテーマとして学生チームに提示し提案を募る。各チームには社員を学生と同じ立場のメンバーとしてアサインすることで、徹底的に提案内容のリアリティを求める。約3ヶ月間にわたる活動を通じて、「戦略・ビジネスプランの立案能力」「多様性ある中で発揮するリーダーシップ」「周囲のリソースを最大限活用する力」の3つの能力を育てるべく、それぞれの目的にたどり着けるようプログラムの内容を工夫している。</p> <p>チームメンバーの構成は、必ず“他大学・他学部・他学年”のいずれかが混合されていることを参加条件とし、多様性あるメンバーの中でリーダーシップを発揮する経験をする。また、正課科目の BLP の履修経験者を最低 1 名入れることとし、リーダーシップの基礎を事前学習した学生がその内容を他のメンバーに波及させることで本プログラムの効果を高めている。</p> <p>学生相互や社員によるフィードバックによって一人一人が自分の強みに気づく機会を用意している。また、提案活動の終了後は「振り返り」に多くの時間を割き経験から学んだことを定着化させている。</p>	
	<p>【チーム構成】</p> <p>BLP Advanced は各チームに 1 名の HP 社員が Rep としてアサインされる (写真中央の男性が Rep、右端の男性は事務局として運営に携わった HP 社員)。BLP Advanced での成果と学びの量は学生がいかにか Rep をチームに巻き込めたかがポイントの一つとなる。</p>	
	<p>【プロジェクト最終提案】</p> <p>役員を含めた決裁者に対して最終提案を行っている学生の姿。BLP Advanced ではリアルなビジネス経験にこだわっているため、最終提案はビジネスコンテストのように大ホールでのプレゼンテーションは行っていない。</p>	

奨励賞

大企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>株式会社フジテレビジョン</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>『あなせん』プロジェクト</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>学校の先生方より「コミュニケーションがうまくできない子どもたちが多い」という声を聞き、アナウンサーが自発的にプロジェクトを立ち上げ、港区内の小学校を中心にスタート。「言葉で伝えるって楽しい！」と体感できるよう、発声法から早口言葉、ニュースや天気予報原稿の伝え方、スポーツ実況、スピーチ、など、多岐にわたるプログラムを提供してきた。2014年4月からはキャリア教育の要素をプラスし、テレビ局やアナウンサーの仕事内容も盛り込み、「言葉の授業」からさらに一步進めて、「言葉を通したコミュニケーション・メディアリテラシーの授業」へと内容を一新した。</p> <p>まずは「聞こえる声で話す」「伝わるように話す」ということを目的に授業を展開し、発声・滑舌法、発表のテクニックなど、オリジナルテキストを使って指導している。インタビュー/スピーチの指導では、2人1組になって実践をおこなったり、自信のある人は前に出て発表してもらったりするなど、ただ聞くだけの授業ではなく実践・参加する時間を設けている。</p> <p>最終的には、「生きる力」にもつながるコミュニケーション力として「自分の意見を自分の言葉でしっかりと伝える力」「人の話を聞くことの重要性」を身につけてもらうこと、また近年携帯・スマホなどの普及で急激に減りつつある「face to faceのコミュニケーション」の大切さも同時に伝えている。</p>	
	<p>【授業風景】</p> <p>品川区立中延小学校にて 佐々木恭子アナによるスピーチの 授業</p>	
	<p>【授業風景】</p> <p>千葉市立真砂西小学校 藤村さおりアナ・小穴浩司アナに よる「お天気キャスター」体験 (持っているのはオリジナルテキ スト)</p>	

奨励賞

中小企業第1部（単独の部）

<p>企業・団体名</p>	<p>折り紙ヒコーキ協会（事務局：株式会社カスタム）</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>折り紙ヒコーキ教室および大会</p>	
<p>活動の内容 （概要）</p>	<p>同協会は、モノづくりの体験を通じて青少年の健全育成と生涯学習の場とした地域文化を醸成させることを目的として、株式会社カスタムが事務局となって1995年に発足。老若男女全ての人々が参加し楽しむ事ができる折り紙ヒコーキ教室および大会を開催している。認定指導員養成講座により指導員を育成し、各種団体が主催するイベント、小学校や子供会からの依頼による教室の開催を支援している。</p> <p>大会では幼児からお年寄りまで参加者全員が使用する用紙と競技環境を統一し、どれだけ長い時間飛ばすことができるかを競う滞空時間競技と、どれだけ遠くまで飛ばすことができるかを競う距離競技を実施。チャレンジ精神の向上とともに、紙ヒコーキの製作・調整・投てき・改善のサイクルを通じて、想像力や集中力が養われる。</p> <p>また、個人競技のみならず、3人1組で戦う団体戦競技もあり、チームで協力して戦うことにより、自分では思いつかない新たな発想や工夫、考えを知ること、自分の考えを相手に伝えるコミュニケーション能力を養うことができる。</p> <p>会場内の折り紙ヒコーキ作成エリアや練習エリアでは協会認定指導員以外にも、年配の方に習う子どもや、周りの同世代の子ども達で教え合う姿もあり、幅広い世代間の交流が生まれる場ともなっている。</p> <p>開催結果をホームページ上に公開することで、参加者や各地域に活動の成果を認知して頂き、次回の参加意欲の向上へと繋げている。</p>	
	<p>【近隣の小学校での折り紙ヒコーキ教室】</p> <p>参加者は1年生から6年生まで全学年の生徒と保護者＋祖父母。折り方は勿論のこと、飛行機が飛ぶ原理（航空力学）も分かり易く簡単に説明しながら教室を行っている。</p>	
	<p>【競技の様子】</p> <p>学級毎に一列に並び、3・2・1・GO!の合図と共に各自で製作した折り紙ヒコーキを投げて飛距離を競争する。</p>	

奨励賞

中小企業第1部（単独の部）

<p>企業・団体名</p>	<p>一般社団法人 Summer in JAPAN</p>
<p>プログラム名</p>	<p>Summer in JAPAN 2014</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>国際社会における日本のプレゼンスを高め、諸外国との相互理解と対話を通じた国際間の競争に耐えうるグローバル人材を輩出することを目的に、アメリカのトップ大学であるハーバード大学から毎年現役大学生を招き、効果的な英語教育、多彩な国際交流プログラム、地域における優良な教育機会の提供を3つの柱に多様なプログラムを提供している。</p> <p>SIJ2014 プログラムの第一部では、海外に羽ばたくリーダークラスの人材のための英語を幼少期から身につけてもらう「英語集中セミナー」を行う。セミナー期間中には、広い教養を育む学生の企画演奏の「クラシックコンサート」も実施、一般にも公開している。</p> <p>第二部ではアメリカ人大学生に日本を深く知ってもらう「日本学講座」を実施し、よき日本の風土・文化を海外に紹介している。日本語・書道・華道の体験のほか、日本人中高生が地元を案内する地域活性&国際交流プログラムを通じて外国人をどう「おもてなし」するかを考え実行することで、社会に出る際の基礎力を学ぶことにつなげている。</p> <p>また、第三部では英語の実践力強化、リーダーシップ、チームワークの育成を目的に、「医療フォーラム」を実施。日米大学生が医療現場に赴いて、医療従事者と共に医療の未来を考える英語ディスカッション“白熱メディカル教室”と病院視察を行った。</p>
	<p>【第一部「夏期英語集中セミナー」最終日ファイナル・プレゼンテーションでのひとこま】</p> <p>Drama Script / Academic Writing / Presentation Skills / Marketing Yourself の4つのワークショップ7日間での成果をひとりひとりがステージで発表した。</p> <p>写真はドラマ・スクリプトの子どもたちが、シナリオからセリフ・演出まですべて子どもたちで協力しながら創った英語劇を披露している。</p>
	<p>【第三部「医療フォーラム」“白熱メディカル教室”での様子】</p> <p>Terminal Care / Legal Issues / Aging Population / Preventative Healthcare の4つのグループに分かれて日米の医療の違いと現状について理解した後、全体ディスカッションで Universal Healthcare System についてディスカッションした。</p> <p>写真では Terminal Care のグループでハーバード生、日本人大学生、医療従事者が熱く議論している。</p>

奨励賞

中小企業第1部（単独の部）

企業・団体名	株式会社トモノカイ
プログラム名	大学体感プログラム
活動の内容 (概要)	<p>大学体感プログラムのコンセプトは大学生が「僕らが中高時代にこんなプログラムがあったらうれしかったもの」、ミッションは、「全国の中高生にターニングポイントを提供する」こととし、各地の中高生が修学旅行の際に東京を訪れた際に、現役の大学生と交流する機会を提供している。</p> <p>プログラムでは、講義型の時間はほとんどなく、コミュニケーションの双方向性を重視するため、基本的に生徒10名に対して大学生1名という少人数の班で進行が行われる。最初に自己紹介しあう時間や大学クイズを行う時間で距離感を縮め、体験ゼミの時間では「商品開発」や「マーケティング」を題材に大学生と議論をし、大学生の頭の使い方と発表を体験することができる。また、学生による座談会ではどんどん質問してもらい、最後に1年後自分に届く未来のメッセージカードを記入するという構成となっている。</p> <p>高い目標を突破し、今後自分ができることにワクワクしている大学生と同じ目線で話をするにより、挑戦することの素晴らしさや視野が広がる感覚を得るとともに、「自分も頑張ればできるんだ」「自分もこうなりたい!」という内発的な動機付けを引き出している。</p> <p>本プログラムは、講師役である大学生にとっても成長する機会となっている。</p>
	<p>【プログラムの風景】</p> <p>一班はおよそ10名程度の中高生に対して1名の大学生が担当する。</p>
	<p>【真剣に話を聞く生徒様】</p> <p>年齢が近いからこそ受け入れやすい。大学生の言葉一つひとつを真剣に聞き、メモを取る。</p>

奨励賞

中小企業第2部（協働の部）

企業・団体名	リエゾン・デートル	
プログラム名	「世界ビトになろう！」	
協働の概要	<p>リエゾン・デートルが主体者となり、一部にゲストスピーカーとして株式会社ワンプラネットカフェ、株式会社ミヤザワが参画して、グローバル人材育成を目的とした出前授業を行っている。また、社団法人「子供の成長と環境を考える会」が学校の紹介をしている。</p>	
活動の内容（概要）	<p>日本の社会におけるグローバル人材の不足とその育成への強い必要性がありつつ、教育の現場では未だ子供たちへの社会のグローバル化に対する意識付けが充実していないという問題意識から、多様なグローバル人材のインタビューを動画にて紹介することに着目してICT 動画教材「世界ビト図鑑」製作。</p> <p>小学生から大学生・保護者を対象にして、この教材を用いたワークショップを実施し、グローバル人材が特別な存在ではなく身近な職種であることを伝えるとともに、「世界で働くこととは」「グローバル人材に必要な資質」等を学ぶ機会を提供している。参加した生徒からは「自分の能力を活かして世界で羽ばたいてみたい」「世界で働くことは将来普通のことになるのだと分かった」などの積極的な意見を聞くことができています。</p>	
	<p>【2014年2月5日私立戸板中学校3年生向け授業の風景】</p> <p>私立女子校にて海外で活躍する女性を取り上げ、女性の自立と世界に広がる職業の選択肢についてご説明。生徒の皆さんには現在どのような職業観を持っているのか、海外についての印象など質問を交えながら授業を進めた。多くの事例を用いたことで分かり易い授業であったとの感想を得る事が出来た。</p>	
	<p>【2014年2月28日中野区立江原小学校での出前授業の様子】</p> <p>ゲストスピーカーのワンプラネットカフェのエクベリ聡子代表がザンビアで行っているバナナペーパープロジェクトについてクイズ形式で説明している様子。海外と関わる仕事の実例に触れて小学六年生はとても興味を持って沢山質問をして理解を深めた。</p>	

奨励賞

コーディネーターの部

企業・団体名	特定非営利活動法人企業教育研究会
プログラム名	企業と連携した13の授業プログラム
支援・連携体制	<p>企業や専門機関、専門家など学校外部の教育資源を活かした授業プログラムや教材を開発し、出張授業や教材の配布、教員研修会への講師派遣を行う。</p> <p>千葉大学・静岡大学・兵庫県立大学に活動の拠点を置き、専門の職員だけでなく、大学生や大学院生が積極的にコーディネーターとして活動する。</p> <p>授業づくりの専門性を活かしたプログラム開発を行い、教育関係の学会等において、企業と共同でその成果を発表している。</p>
活動の内容 (概要)	<p>児童・生徒がプロの職業人（ゲスト講師）から仕事のコツを学ぶことで、教科の単元や学習内容と仕事や職業・社会とのつながりを理解し、学習意欲を高めることのできるプログラムを数多く実施している。</p> <p>ゲスト講師による一方的な情報提供に終始しないように、コーディネーターとしてスタッフが授業進行役を担い、児童・生徒の興味を引きつけ、理解が難しい点が出た場合は補足の質問をするなどの役割を担うチームティーチングを行っている。</p> <p>また、各プログラムの中では受講児童・生徒のキャリア形成の指標として、ゲスト講師の半生を語る場面に授業に設定している。それを踏まえ、受講生徒・児童がどのような体験・学習をすることが社会人基礎力につながるか、未来を担う人材として期待することを伝えている。</p> <p>また、NPO活動メンバーの多くは教員を目指す学生であり、未来のキャリア教育を推進できる人材育成の場ともなっている。</p>



【支援・連携体制】

企業と学校と大学生をつないで、誰もが教育に貢献する社会を目指している。



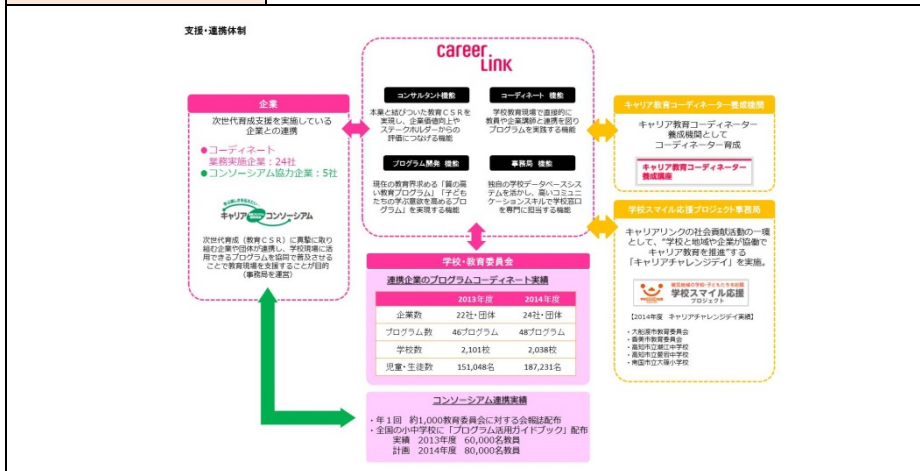
【「教育ルネサンス ことばの授業」の様子】

新聞記者（左）とNPOのスタッフ（右）がかけ合いを行いながら授業を進行。多くの授業はチームティーチング形式で行われる。

奨励賞

コーディネーターの部

企業・団体名	株式会社キャリアリンク
プログラム名	※実施主体ごとに異なる
支援・連携体制	各企業、学校・教育委員会のニーズに合わせ、コンサルタント機能・コーディネート機能・プログラム開発機能・事務局機能を担っている。
活動の内容 (概要)	<p>教育支援活動を希望する企業に対して、自社の教育リソースを活かしつつ、学校の教科や単元の狙いに即したプログラム・教材開発ができるように、企業・学校と協働してプログラム開発を行っている。2014年度は10月時点で24企業・48プログラムを開発・コーディネートし、小学校から高校まで全国約2,000校にプログラムを提供している。</p> <p>授業の教育効果を高めるために、学校現場の基礎知識や児童・生徒への問いかけ方などの企業講師研修プログラムを実施するとともに、教員がプログラム内容を理解し、事前・事後学習を効果的に実施できるようにティーチャーズガイドや児童・生徒用教材を作成しているほか、キャリア教育の体系的な実施計画立案スキルを高めるための教員研修も行っている。</p> <p>また、キャリア教育に関する産学の関係構築に向けて、「キャリア教育コーディネーター認定資格」を有する社員からなるコーディネート専門部署を設立し、学校・企業の協働を支援しているほか、キャリア教育に取り組む企業や団体からなるコンソーシアムを組織化し、学校現場で活用できる教育プログラムの普及に取り組んでいる。</p>



【支援・連携体制】

弊社の教育コンサルティング・コーディネート支援・連携体制



【弊社にて開発・コーディネートするプログラム（一部）】

- プログラムのねらいが理解でき、より教育効果の高い授業実現を可能とする
 - ティーチャーズガイド
 - 企業講師用ガイド
- 児童・生徒の思考を支援し、深い学びにつなげる
 - ワークシート
 - ワークブック
 - スライド教材
 - 映像教材
 - カード教材
 - など

奨励賞

コーディネーターの部

企業・団体名	株式会社ソシオエンジン・アソシエイツ
プログラム名	練馬区「アニメ産業と教育の連携事業」
支援・連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ●事業主体：練馬区 商工観光課 アニメ産業振興係 ●実施協力機関：一般社団法人練馬アニメーション他、練馬区内のアニメ関連事業者 ●学校での教育プログラム実施支援・事業推進：(株)ソシオエンジン・アソシエイツ
活動の内容（概要）	<p>平成21年に練馬区にて策定された「練馬区地域共存型アニメ産業集積活性化計画」の5つの施策の一つである「アニメ文化普及」の施策の一環として事業がスタート。立ち上げ当初より、授業の実施支援の他、事業推進として、事業計画の立案、教員向けの研修・広報など各種施策の提案・実施を行っている。</p> <p>関係者によるワークショップを経て「夢に向かってやり遂げる“ココロとカラダ”を手に入れよう」を事業目標に設定。総合的な学習の時間や社会、図画工作など、教科に合わせたプログラム、教材開発を行い、毎年改良・改訂を重ねている。また、ティーチャーズガイドの作成や教員向け研修会の開催など、教員主導で実施する為の工夫をしている。さらに、授業実施に向けた事前準備から実施後までコーディネーター業務のマニュアル化・見える化をするとともに、「学校ニーズ把握シート」や「事前アンケート」など各種フォーマットを整備することで、「将来的にはコーディネーターがいなくても機能する状態」が実現することを目標に、しくみの提案・構築を行っている。</p>



【検討会議の様子】

千葉大学教育学部の藤川教授を座長とし、日本大学芸術学部齊藤教授、区内の小中学校校長、授業を実践する教員、一般社団法人練馬アニメーションを始めとしたアニメ産業関係者、教育NPO、練馬区で構成する検討会議。年に2回の開催だが、多様なセクターの方が「練馬の子どもたちの未来」を真剣に語り合っている。

【教員サポート】

アニメ制作体験プログラムの一例。ゲスト講師による授業だけでなく、教員との協働が必須となる。これらを実現するため、教員向けの研修会など、教員が子どもの状況にあわせて活用できる指導計画立案のためのサポートを行っている。

